

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)／黒田
俊太郎

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業内容

私は言語系コース(国語)で近代現代文学を担当している。私が教師を目指す学生に身につけてもらいたいのは、教材(小説、詩、説明文など)を読解する能力である。小説を読解する場合を考えてみよう。小説読解にも方法・理論がある。むろんそれらに縛られるのは良くはないが、生徒たちの豊かな解釈を引き出すためにも、教師は高いレベルで文学理論を習得・理解する必要がある。それに加えて、小説読解に際しては、「初出情報」「作者情報」「先行研究」「同時代評」といった基本情報を事前に調査する必要がある。これはいわゆる「教材研究」にあたる作業といえるが、①「教材研究」とは何か、②なぜしなければならないのか、③どのように調査すればよいのか、これらのことへの理解がしっかりと着実に就学期間の中で深まるような独自のカリキュラムづくりをして行きたい。

②授業方法

学部生を対象としたカリキュラムを想定してみよう。まず初年度教育においては、講義を聞き、ノートを取る方法に始まり、図書館の利用を含む文献調査の方法などについて学んでもらう。2年次には、基礎的理論を学んでもらう授業を行う。また別の文学史の授業において初年度教育で学んだ文献調査の方法を生かし発表を学んでもらう。3年次には、実際に小説テキストの分析を演習形式の授業で行なってもらう。4年次にも演習形式の授業があるので、さらに意欲のある学生に対しては、より高度な読解が出来るよう、理論・調査の両面から指導したい。

③成績評価

〈読解できた〉ということは、外部から判断することが極めて難しいことである。ただし、ある解釈が論理的に妥当か否かという判断は可能だろう。生徒の自立や人間理解に小説などを読むことが資するとすれば、多くの生徒が納得できるような確かな解釈を導ける客観性と論理性を身につけているかということが、評価の基準となると思われる。

2. 点検・評価

①授業内容

文学的教材(国語)に対する高度な次元での「教材研究」の実践のために必要な能力を修得することを目的としたカリキュラムに基づき、講義を実施した。

②授業方法

上記の能力(先行研究・同時代評の収集・分析能力、小説テキストの分析能力など)を無理なく修得できるようイメージして設計されたカリキュラムに基づき、ワークシート・レポート・演習における口頭発表を実施することで、修得した知識・能力の定着をはかった。

③成績評価

小説テキストや先行研究・同時代評に対する、演習における口頭発表・テスト・レポート等における分析が、独創的かつ客観的証左に依拠していたかということをも判断基準とし評価した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①全体としてはⅠで取り上げたことに取り組み、学生の実践能力の向上を図る。
- ②ゼミ生に対しては、卒論・修論の完成に向けて、より緻密な指導を行う。
- ③学部1年次生クラス担当教員として、初年度教育の充実を図る。

2. 点検・評価

- ①各学年で設定した学生の実践能力における修得目標の達成に向け尽力した。
- ②卒論・修論の提出に向けて研究計画をたてさせ、適切な指導を行った。
- ③学部1年次生クラス担当教員として、生活面・学習面のアドバイスをを行った。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①これまで行ってきたロマン主義文学に関する研究を継続して行い、学会発表・学会誌への投稿を行う。
- ②四国地方を中心とした学外の研究者とも積極的に交流をはかり、地域文学に関する調査研究を行う。

2. 点検・評価

- ①自身の研究テーマに基づき、2つの学会で口頭発表を行い、論文4編を公刊した。
- ②学会等を通じて四国・関西地方の近代文学研究者との交流をはかった。また、徳島県出身の文学者に関する論文を執筆した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①学部入試委員会委員としての業務に携わる。
- ②赴任2年目のため、十分な理解に至っていない所属コースの業務の内容を把握し、業務の実施に努める。
- ③教育実習生の授業には出来る限り参加し、受け入れ校との連携を図りながら適切な指導を行う。

2. 点検・評価

- ①学部入試委員会委員として、大学入試センター試験・学部入学試験(前後期)の円滑な運営・実施に尽力した。
- ②所属コースの業務内容を理解し、その遂行に努めた。
- ③教育実習生の研究授業・評価授業に積極的に参加し、受け入れ校と連携しながら、指導を行った。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①学部附属連絡協議会及び附属校の授業研究会等に参加し、研究の専門に応じた指導・助言を行う。
- ②依頼に応じ、公開講座の講師として講座を開講し、社会に貢献する。
- ③地域で開かれる研究会に参加するなどして交流をはかり、地域の文化的活動の新興に貢献する。

2. 点検・評価

- ①新任大学教員の附属学校における研修におもむき、附属校・園の状況把握に務めた。
- ②学部附属連絡協議会及び附属校の授業研究会等に参加し、自身の研究の専門に応じた指導・助言を行った。
- ②公開講座の講師として講座を開講した。
- ③徳島県出身の文学者に関わる資料を参照し、地域の文学史・文化史的情報の発掘に努めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ①平成26年度科学研究費補助金について、研究代表者として1件の課題を申請した。
- ②文部科学省特別経費「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の推進の一環として、「教科内容学に基づく小学校教科専門科目テキスト 国語」の執筆に尽力した。